

序章 津田塾大学の歴史と特色

津田塾大学は、1900（明治33）年津田梅子によって創立された「女子英学塾」を前身としている。

津田梅子は、1871（明治4）年、岩倉具視大使一行の欧米視察団に同行し、米国留学の途に着き、その後、1882（明治15）年に帰国するまでの11年間アメリカ合衆国で教育を受けた。帰国時は満17歳であった。日本に戻った梅子は女性の地位の低さを強く感じ、早い時期から「男性の真の協力者にして対等の地位に立つ」自立した女性を育成する学校の設立を志した。政府からアメリカ合衆国へ派遣され、勉学の機会を与えられたことを何らかの形で社会に還元したいという強い思いもあった。この決意が津田塾大学の源流である。

1885年、津田梅子は華族女学校で教鞭をとる機会を得た。しかし、自身の理想の実現のために高等教育を受けることを志し、1889年、再びアメリカのプリンマー大学へ留学した。3年間にわたる留学で、梅子は自らが進むべき道を再確認し、女性教育にかける思いをより具体化した。帰国後、引き続き華族女学校で教えていた梅子は、1898（明治31）年には女子高等師範学校の教授も兼ねている。

翌1899（明治32）年2月には高等女学校令が公布され、また、同年8月の私立学校令により私立学校の設置が可能となった。こうした背景もあって、高等女学校の数は飛躍的に増加し、その教員を養成する女子高等教育機関の必要性が社会的な関心事となってきた。しかし、当時の女子高等教育機関は女子高等師範学校だけであった。梅子が1900（明治33）年7月に華族女学校および女子高等師範学校教授の職を辞し、私塾創設に踏み切ったのは、まさに積年の思いと社会的状況が一致した時期であった。

1900（明治33）年9月14日、津田梅子は、日本最初の私立女子高等教育機関である女子英学塾を麹町区一番町（現在の千代田区麹町）に創設した。この時の学生数は10人であったが、3年後には50人を超え、1902年には麹町区五番町へ移転している。1904（明治37）年3月には専門学校の認可を受け、同年9月には社団法人となった。1905年には、英語科教員無試験検定が許可された。その頃から入学志願者も年々増加し、塾の拡張が検討されはじめた。当初は、五番町校地維持が前提であったが、東京市郊外の発展などもあり、移転案が浮上し、4箇所候補地から最終的に小平が選ばれた。1922（大正11）年12月には、土地の取得と登記が完了した。

翌1923（大正12）年9月1日の関東大震災で、五番町校舎は壊滅的な打撃を受けたが、梅子の友人たちおよび卒業生の献身的な努力によって、1924年1月には仮校舎で授業を再開することができた。

小平校地を購入したものの、震災からの復旧などに追われ、また、新校舎建設の資金の調達に苦慮していたが、梅子のアメリカでの友人たちからの寄付などもあって、1927（昭和2）年に至り、ようやく新校舎の建設計画に着手した。1929（昭和4）年10月に最終的な計画が固まり、1931（昭和6）年、小平新校舎が完成し、9月には授業が開始された。しかし梅子は、1917（大正6）年に体調を崩し、翌年には塾長の実務から退き、1929（昭和4）年8月16日に死去したので、この完成を見ることはできなかった。

1933（昭和8）年7月には校名が「津田英学塾」と改称された。

以上のように女子高等教育機関として英語教育一筋に進んできた本学にとって、太平洋戦争勃発は大きな試練となった。社会の動きを反映して、志願者が戦争直前の1940（昭和15）年以降、減少の一途をたどっていたことも一因となり、1943（昭和18）年、理科を増設した。また、それを機に、創立以来冠してきた「英学塾」という名称は、「津田塾専門学校」と改められた。

1945（昭和20）年8月の終戦から2ヶ月後には授業が再開された。戦後の学制改革の動きに対応して、理事会は1946（昭和21）年には新制大学としての設立の申請を行なったが、英文学部英文学科から成る新制津田塾大学の設立が認められたのは、1948（昭和23）年4月である。翌1949（昭和24）年には理科から再編された数学科の増設が認可され、学部名は学芸学部となった。

その後、学芸学部の3学科を基とする大学院を順次設置し、高等教育機関にふさわしい体制を整えていった。以降今日に至るまで、学科の再編、コースの見直しなど、社会のニーズを踏まえた改革を暫時続けている。

2008（平成20）年4月には渋谷区千駄ヶ谷に千駄ヶ谷キャンパスを開設し、地の利を生かした教育・研究活動を開始している。2010（平成22）年度には、現職教員を対象にした大学院文学研究科修士課程の新コース「英語教育研究コース」を開設するが、これも現代社会の動向に対応した改革の一つである。

本学は、創立者津田梅子が目標として掲げた「自立した女性」「all-roundな女性」の育成を教育の柱としているが、彼女の思いは現代にも通じるものである。

現在、本学が目指している教育の理念を、学生に向けてのスローガン風に簡潔に記すと次のようになる。「21世紀の複雑で多様なニーズに対応すべく、グローバルに、そしてローカルに、勇気・情熱・志をもって世界を拓き、社会に貢献する女性の育成」。そして、その教育の柱は4つある。

- （1）リベラルアーツに裏打ちされた、オールラウンドな人間力
- （2）世界に向けての知の発信力
- （3）国際的に活躍・行動するための英語力とコミュニケーション能力
- （4）生涯を通して学び続ける姿勢。

さらに、それらを本学の特色として具体的に示すと、以下のようにまとめることができる。

- (1) 女性の自立と地位向上に努め、男女共同参画社会の実現をめざす女性のための大学であること。
- (2) 専門的知識を身につけると同時に、リベラルアーツ教育を基盤として、広い教養を培い、社会に貢献し得るall-round women を育成すること。
- (3) 言葉の力に裏打ちされたコミュニケーション能力の育成を重視していること。
- (4) 学生の自主性を尊重していること。
- (5) 教員の研究上の達成を重視すると同時に、学生に対する熱意ある教育に特に重点を置いていること。
- (6) 規模の拡大にとらわれることなく、学生の個性を重視し、少人数教育の実施に努

めていること。

(7) 学風として勤勉・堅実・質素を旨としていること。

2010年に創立110周年を迎える本学は、その長い歴史において、常に教育を通して女性が自立して社会に貢献できる力を得ることを目指してきた。相互評価を契機に、建学の精神を現代の社会にも生かしつつ、教育および研究の一層の充実を図り、新たな発展を期すものである。

沿 革

1900 (明治33) 年 7 月 9 月	私立「女子英学塾」の設立認可を受ける。 東京麹町区一番町に「女子英学塾」開塾。塾長 津田梅子。 14日開校式、塾生10名。
1904 (37) 年 3 月	専門学校令(36年3月公布)による専門学校の認可を受ける。
1905 (38) 年 9 月	英語科教員無試験検定取扱の許可を受ける。
1919 (大正8) 年 2 月	津田梅子塾長病気のため、辻マツ塾長代理となる。
1923 (12) 年 9 月	関東大震災により、校舎全焼。10月15日より女子学院の一部を借り授業開始。
1924 (13) 年 1 月	焼跡に仮校舎を建築。
1925 (14) 年 3 月	塾長代理辻マツ辞任。星野あいその後を継ぐ。
1929 (昭和4) 年 8 月 9 月	16日津田梅子塾長、鎌倉の別荘にて逝去。 星野あい、塾長となる。
1931 (6) 年 9 月	東京府下北多摩郡小平村に新校舎成り、移転。
1933 (8) 年 7 月	校名「女子英学塾」を「津田英学塾」と改称。
1943 (18) 年 1 月	理科増設。数学科、物理化学科を置く。校名「津田英学塾」を「津田塾専門学校」と改称。
1948 (23) 年 4 月	学制の改革に伴い、「津田塾大学」を設立。英文学科を置く。
1949 (24) 年 4 月	数学科を増設。学芸学部を英文学科、数学科を置く。
1951 (26) 年 2 月	設置者 学校法人津田塾大学となり、高木八尺理事長となる。
1952 (27) 年 3 月 4 月	星野あい、学長を辞任し名誉学長となる。 粕谷よし、学長となる。
1954 (29) 年 5 月	石坂泰三、理事長となる。
1960 (35) 年 1 月	語学研究所を附設。
1962 (37) 年 3 月 4 月	粕谷よし、学長を辞任。 藤田たき、学長となる。
1963 (38) 年 4 月	大学院設置。文学研究科英文学専攻修士課程及び理学研究科 数学専攻修士課程を置く。
1965 (40) 年 4 月	大学院文学研究科英文学専攻博士課程設置。
1969 (44) 年 4 月	学芸学部国際関係学科を増設。
1971 (46) 年 7 月 10 月	計算センターを附設。 保健センターを附設。
1972 (47) 年 4 月	大学院理学研究科数学専攻博士課程設置。
1973 (48) 年 3 月 4 月 11 月	藤田たき、学長を辞任。 河野正通、学長事務取扱となる。 中島文雄、学長となる。
1974 (49) 年 1 月 4 月	横田喜三郎、理事長となる。 大学院国際関係学研究科国際関係論専攻修士課程設置
1975 (50) 年 7 月	国際関係研究所を附設。
1976 (51) 年 4 月	大学院国際関係学研究科国際関係論専攻博士課程設置
1980 (55) 年 10 月 11 月	中島文雄、学長を辞任。 大束百合子、学長となる。
1985 (60) 年 4 月	語学研究所を言語文化研究所と改称。視聴覚センターを附設。
1988 (63) 年 4 月 10 月 11 月	数学・計算機科学研究所を附設。 大束百合子、学長を辞任。 天満美智子、学長となる。
1993 (平成5) 年 7 月	彌永昌吉、理事長となる。
1995 (7) 年 10 月	石坂一義、理事長となる。
1996 (8) 年 4 月	数学科を情報数理科と改称。 保健センターをウェルネス・センターと改称。

	10月	天満美智子、学長を辞任。
	11月	志村尚子、学長となる。
2000 (12) 年10月	津田梅子記念交流館を附設。
2001 (13) 年4月	国際センターを附設。
2004 (16) 年10月	志村尚子、学長を辞任。
	11月	飯野正子、学長となる。
2006 (18) 年4月	情報数理学科を改組し、数学科と情報科学科を新設。 イングリッシュ・コーディネーション・センターを附設。
2006 (18) 年7月	服部禮次郎、理事長となる。
2008 (20) 年4月	千駄ヶ谷キャンパス開設。